

Paratrichius septemdecimguttatus
(Snellen van Vollenhoven, 1864)

日本から初めて発見された Phloeostichidae

平野幸彦¹⁾・草野憲二²⁾

¹⁾ 〒 250-0865 小田原市蓮正寺 585-29

²⁾ 〒 963-8013 郡山市明神町 5-37

Family Phloeostichidae newly discovered from Japan

Yukihiko HIRANO & Kenji KUSANO

Abstract. One male specimen of *Phloeostichus denticollis* Redtenbacher was collected from Fukushima Prefecture, Honshu, Japan. This is the first record of both this species and the family Phloeostichidae from Japan.

平野は草野からメールで福島県檜枝岐で得た甲虫の画像を送られ、同定を求められた。これは日本から報告のない Phloeostichidae であると思われるので、現物を送るように依頼した。標本を検鏡したところ、Phloeostichidae に属する *Phloeostichus denticollis* Redtenbacher であることがわかったのでここに報告する。科と種の和名はコヒラタムシ科、コヒラタムシを提唱したい。

コヒラタムシ (和名新称) *Phloeostichus denticollis* Redtenbacher, 1842

外部形態：体長 3.5–5.0 mm。黒褐色で、やや平たく、脛節、跗節は褐色。背面は黄白色毛におおわれる。上翅の前後に黄褐色の帯状斑紋があるが、目立たないものもある。♂の跗節式は 5-5-4。♀は 5-5-5 である。前頭頭楯縫合線はない。触角は先端 3 節が球桿を形成し、第 3 節は第 2 節および第 4 節より明らかに長く、第 8 節は第 9 節より小さい。前胸背板の基部近くに丸く浅い一对の凹みがある。側縁には通常 3 個の歯状突起があり、後角は突起状で角張る。しかし、突起の位置、数は不確定である。上翅は前胸より幅広く、長さは幅の約 2 倍。

採集データ：1♂、福島県檜枝岐村馬坂峠～台倉高山間・三段田代 (標高 2,000～2,020 m), 6. XI. 2013, 草野憲二採集 (図 1, 2)

この個体は体長約 5 mm でかなり黒化している。跗節式は 5-5-4 であるので♂である。なお、スロバキア産の♀の標本 (図 3) とも比較して、同種であることを確かめた。また、ネット上で本種の 10 個体ほどの鮮明な画像とも比較した。雌雄で異なり、かなり変異があるようである。分布はヨーロッパからシベリアまでかなり広範囲であるので、北海道にも分布しているのではないかと考えている。追加個体を見たいものである。

分布：本州；オーストリア、チェコ、デンマーク、フランス、ドイツ、イタリア、ポーランド、スロバキア、コーカサス、東シベリア (以上、平野)

採集地の環境と採集状況

草野が檜枝岐村馬坂峠に到着したのは、10 時 30 分であった。天気は快晴であったが前日に雪が降り、標高 1,900 m の登山口周辺にはうっすらと雪が積もっていて、登山道を進み針葉樹林内へ入ると、日陰には霜柱がたっていた。

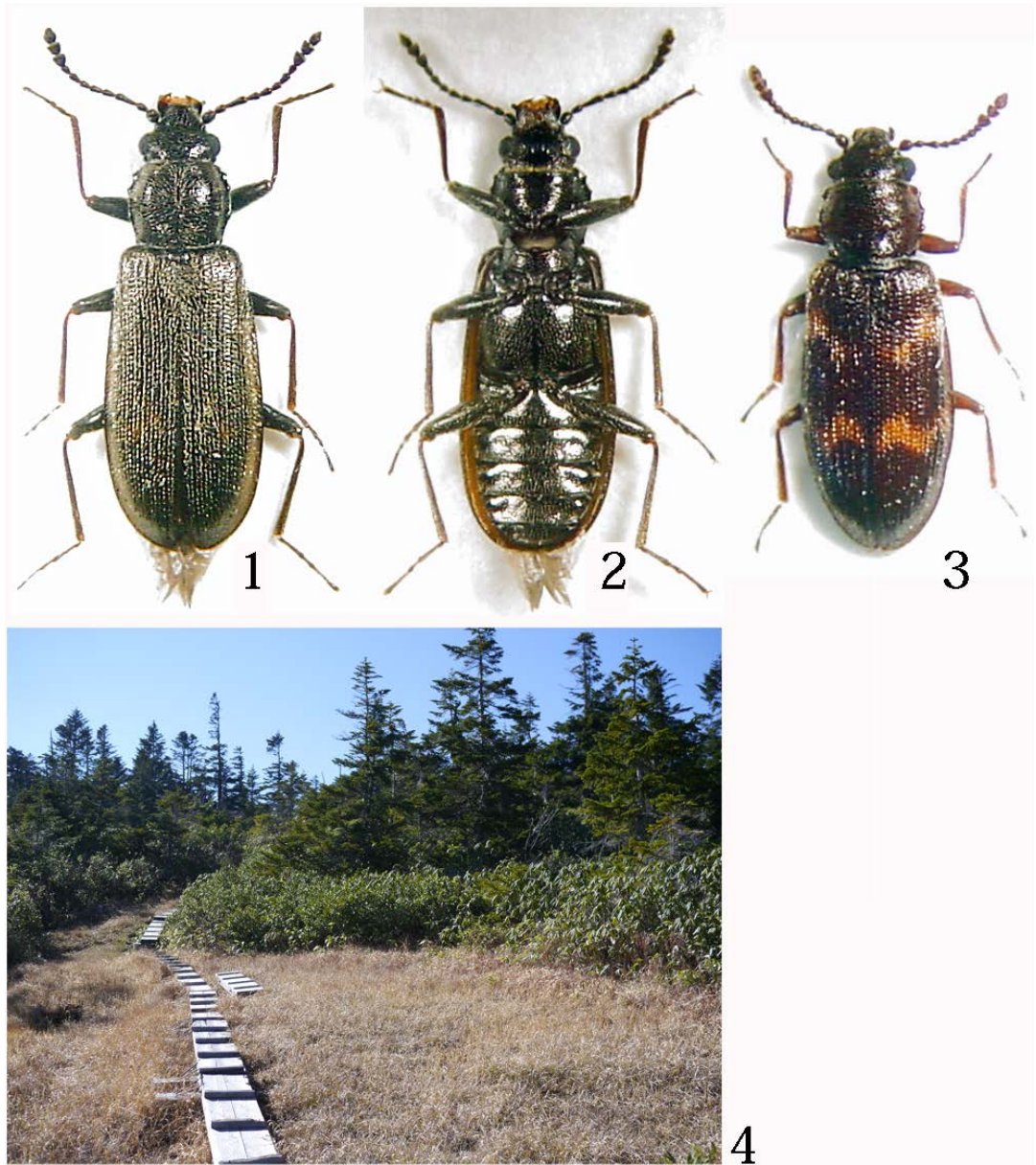


図1-4. コヒラタムシ*Phloeostichus denticollis* Redtenbacherと採集地の環境。1, 背面 2, 腹面 3, スロバキア産背面♀ 4, 三段田代。

13時近くになって、三段田代(図4)という道標のあるところに至り、小さな湿原の中を木道が敷いてあり、休憩できる所もあったので昼食にした。休んでいたところ、湿原上を小さな昆虫が飛翔した。飛び方から甲虫であると確信し、あまり飛ぶスピードが速くなかったので、素手でつかまえて殺虫管に入れた。気温は10℃程度と推定された。帰ってからビノキュラーで見たところ、チビヒラタムシ科に近いがその所属が全く検討もつか

なかったため、平野に画像を送り、その後標本を送った。甲虫屋が普段あまり訪れないような時期・場所に行ったのが、今回の発見につながったのだと思われる。

今回の調査は「レッドデータブックふくしま」改訂のため、環境省の許可(環東地国許第1307293号)を受けて実施したものであることを申し添える。(以上、草野)

引用文献

- Lawrence, J. F. & Slipinski, S. A., 2010. Phloeostichidae. Handbook of Zoology, Arthropoda: Insecta, Coleoptera, Beetles, Morphology and Systematics, 2: 340–346.
- Leschen, R. A. B., Lawrence, J. F. & Slipinski, S. A., 2005. Classification of basal Cucujoidea (Coleoptera: Polyphaga): cladistic analysis, keys and review of new families.

Invertebrate Systematics, 19: 17–73.

- Węgrzynowicz P., 2007. Phloeostichidae. Catalogue of Palaearctic Coleoptera 4. (Edited Löbl & Smetana). p. 496. Apollo Books, Stenstrup.

(2014年1月14日受領, 2014年5月20日受理)

【短報】和歌山県におけるナガマルチビゲンゴロウとキボシツブゲンゴロウの記録

従来、和歌山県からはコツブゲンゴロウ科 Noteridae から3種、ゲンゴロウ科 Dytiscidae から34種の、計37種のゲンゴロウ類が報告されている(田中, 1997; 森・北山, 2002; 中尾, 2005; 的場, 2010, 2011; 初宿, 2011)。筆者はこれまで記録のなかった2種を採集しているので報告する。

ナガマルチビゲンゴロウ *Leiodytes kyushuensis* (Nakane, 1990)

1♂1♀, 和歌山県日高町阿尾, 15. IV. 2012, 筆者採集・保管(図1)。

本種の分布記録と生息環境は森(2013)が詳細に報告している。和歌山県では、阿尾湿地に面する丘陵地に形成された放棄水田から多数のマルチビゲンゴロウ *Leiodytes frontalis* と一緒に採集された。当地における本種の生息密度は薄く、水生植物がなく泥が剥き出しになった環境より雌雄1個体ずつ別々に発見されたのみであった。

キボシツブゲンゴロウ *Japanolaccophilus nipponensis* (Kamiya, 1938)

1ex., 白浜町高瀬川, 8. IX. 2012, 筆者採集・保管(図2); 1ex., 和歌山県すさみ町出谷上戸川, 2. XII.

2010, 山下大輔採集

高瀬川は河川中流域が平野部の樹林下を流れる小規模河川であり、本種は流れが緩やかな淵の根際より採集された。また上戸川は谷筋を流れる細い河川であり、本種の生息密度は薄かったという(藤原, 私信)。

末筆ながら、採集データを提供頂いた藤原淳一氏に御礼申し上げる。また、文献記録および生息環境についてご教示頂いた松野茂富氏(和歌山県立自然博物館)、森本静子氏(大阪府)、および中島淳博士(福岡県保健環境研究所)に御礼申し上げます。

引用文献

- 的場 績, 2010. 和歌山県産甲虫類分布資料 23. KINOKUNI, (78): 24–26.
- 的場 績, 2011. 和歌山県産甲虫類分布資料 24. KINOKUNI, (79): 11–13.
- 森 正人, 2013. 微小水生甲虫の生息環境について - ミジンダマガムシとナガマルチビゲンゴロウの例. さやばねニューシリーズ, (9): 34–36.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版, 東京.
- 中尾史郎, 2005. 和歌山市におけるカンムリセズゲンゴロウの発見. KINOKUNI, (66): 18.
- 初宿成彦編, 2011. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録 (1). 208 pp., 大阪市立自然史博物館.
- 田中昭太郎, 1997. 白浜町しらすぎ橋付近のゲンゴロウ2種の記録. KINOKUNI, (51): 15.

(岡田亮平 550-0015 大阪市西区南堀江 4-15-7-402)



図1. 和歌山県産ナガマルチビゲンゴロウ; 図2. 和歌山県産キボシツブゲンゴロウ。